

# 化学工業日報

2016年(平成28年)

10月26日 水曜日

第23435号 (日刊、土・日・祝日除く)

小西化学

## PES原料の能力倍增

### 福井に新設備 航空機向けなど

小西化学工業は、ポリエチレンスルホン(PES)の原料であるジヒドロキシジフェニルスルホン(DHPPS)を増産する。PESは航空機や水処理機用塗料などの需要拡大が見込めるため、福井工場(福井県坂井市)内に年産能力3000トンの新工場を建設し、2018年に稼働させる。これによりDHPPSの生産能力は倍増する。IoT(モノのインターネット)技術の導入も予定し

ている。主力製品の事業拡大を促す。19年度には売上高50億円超えを目指す。DHPPSは同社の主力製品の一つで、耐熱性や寸法安定性に優れたスーパーエンジニアリングプラスチックのPES向けに展開している。ボーイング787をはじめとする航空機の炭素繊維複合材料(CFRP)に特性を付与する素材として供給しているほか、高級感熱紙向けの顔色剤や、飲料水、工業プロセス用「理膜」も供給。とくに航空機や水処理機は世界中で市場拡大が見込まれている。さらに自動車の車載用部品としても金属部品からの代替需要が高まる見通し。このため約2億円を投じ、福井工場の敷地内

に建築面積6800平方メートルの新プラントを新設する。反応釜などの製造設備は省力化や生産効率化を実現する最新の自動化設備を導入するほか、IoT技術を導入したスマート工場として機能させることを想定。DCS(中央制御室)だけでなく、現場でもオペレーション管理ができるタブレットの導入も検討している。従業員は新たに10人を採用する方針。同社では需要拡大を受け、数年以内にフル稼働に移行できる見通しとしている。

DHPPSは年間3600トンの生産能力を有する和歌山工場を生産している。旺盛な需要によりフル稼働が続いており、設備の老朽化も懸念だった。福井工場との2拠点体制とすることでBCP(事業継続計画)対策になる。福井工場の新プラントの稼働率を高めていく一方で、和歌山工場では従業員や設備の負担を減らし数年をかけて生産量を2000トン台にまで調整する方針。

福井工場では13年に炭素繊維複合材料向けのエポキシ樹脂の生産を開始しており、この工場にもIoT技術の導入を検討する。またDHPPSの新プラント建設後も敷地は約半分が残るため、今後も新規開発も含め、事業拡大が期待できる製品のプラントを建設したい意向。

同社の売上高は約44億円。DHPPSの事業規模の拡大に加え、新規開発品の育成などを加速し、19年度に売上高50億円以上を見込む。



福井工場の新プラントの完成予定図